

第8期宗像市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（案）に関する

市民意見提出手続の意見及びその回答

| 箇所 | 意見 | 対応 | 回答 |
|------|---|-------|---|
| 53 頁 | <p>アンケート結果では前向きな高齢者が半数以上いて、「健康づくりや介護予防の取り組みに住民が主体的に関わることができる仕組みづくりが求められています。」となっているが、現実には自治会や有志団体活動で課題とされていることは、ご高齢者が働かなければならないこと、ご家族の介護、体力的な課題、運転免許返納などによる活動域縮小等の課題によって役員を引き受けることができなくなり、自治会や有志団体自治会と距離を置かなければならなくなっていることだと思う。</p> <p>自治会によっては「〇〇歳以上は役員を引き受けなくてもよい」等、負担回避措置が設けられていて柔軟な対応をされている。市内全ての団体においてこのような措置が共有できれば、団体を離れる人や交流機会の減少は一定抑制できるのではないかと。</p> <p>よって、主体的に関わることも、「負担感なく楽しむ機会づくり」が求められているのではないかと。</p> | 原案どおり | <p>地域包括ケアシステムの構築が全国的な政策課題となっており、本市においても、その構築をめざした取り組みを行っています。その中で、健康づくりや介護予防の取り組みについても、市町村が中心となり、地域における住民主体の介護予防活動の育成・支援を行うこととされていることから「住民が主体的に関わることが求められる」としています。</p> <p>これからの介護予防は、自らの健康管理を基本に、誰もがいきいきと活躍でき、支援が必要になっても地域で暮らすことができる地域づくりもすすめていくことが基本となります。</p> <p>今回の調査では、地域住民有志の活動に対して参加に前向きな高齢者が半数以上であること、また、お世話役としての参加に前向きな方が3割であることがわかりました。ご意見にある課題については認識をしながら、今後、このような方々を発掘・育成し、住民が主体的に関わることができる仕組みを築いていきたいと考えます。</p> <p>また、そのような活動に関わる最初の段階として、「負担感なく楽しむ機会づくり」から始めていただき、お世話役として活動していきたいという方には、本市として育成・支援を行っていききたいと考えています。</p> |
| 60 頁 | <p>(ウ)介護ポイントの付与、有償ボランティアの推進について 福祉分野への介護ポイント、有償ボランティア制度などインセンティブ導入に関しては過去の議会議事録にもあるように記録として確認できるのは平成15年から既に執行部は検討してきている。何故今計画においても「実施」ではなく「検討していく」としているのか。もし仮に何か課題があるのであればその課題も明記されたうえで、「導入については〇〇のような課題もあるのだ」と理由を加筆することで市民も理解しやすくなるのではないかと。</p> | 原案どおり | <p>第4期の計画策定時を含め、介護支援ボランティア制度の導入について検討を重ねましたが、他のボランティア活動との兼ね合いや、ポイントを換金して公費を交付すること、管理機関体制の整備等の課題が想定されることから導入を見送っていました。しかしながら、昨今の介護人材不足や、保険者機能強化推進交付金での評価項目のひとつであること等を受け、第8期では再度検討していくこととしています。</p> |
| 68 頁 | <p>アンケートによればシニアクラブ(老人クラブ)に相談などを行う意思のある人は2.8%しかいない。P65のアンケートでは58%の人が参加していない状況で、地域サロンと比較しても少ない。しかし、結論としては「参加している方にとっては社会参加の機会ともなり、今後も引き続き、こうした機会を確保していくため取り組んでいくことが求められています。」となっている。この表現を使うなら、シニアクラブの会員数、参加者数実績を提示したほうが、このような機会を確保することの必要性について市民の皆さんがより理解しやすいのではないかと。</p> | 一部修正 | <p>老人クラブ事業につきましては、市シニアクラブ連合会に加入している老人クラブ以外に、市シニアクラブ連合会に加入せずに、地域によっては独自で活動されている老人クラブがあります。また、老人クラブは、社会奉仕、文化、スポーツ、レクリエーション等と活動が多岐に及んでいることもあり、参加者数実績については把握ができていません。市シニアクラブ連合会加入老人クラブの会員数についてはのみ把握できていますので掲載させていただきます。</p> |

| | | | |
|-------------|--|--------------|---|
| <p>83 頁</p> | <p>「このように、介護施設では介護人材の確保・育成に苦慮しており、介護施設とも連携しながら、市内で必要とされる介護人材の安定した確保・育成に向けて取り組んでいくことが求められています。」とあるが、「求められているので〇〇を推進していきます。」など具体的な対策を計画として書く必要があるのではないか。</p> <p>このページの対策がP91 の③介護人材の確保であれば、内容について以下の検討をお願いしたい。</p> <p>「外国人研修生の受け入れ」も選択肢の一つとして進める必要があると思う。現実問題として、日本全体の人口減少は明らかで、既に飲食店やサービス事業所、企業も人材確保に苦勞している状況であり、他自治体では外国人研修生の受け入れを進めている自治体もある。</p> | <p>原案どおり</p> | <p>介護人材の掘り起こしについては、91 頁に記載のとおり、ボランティアを活用した仕組みづくりの検討を含め、近隣市や県との情報共有・連携等により引き続き検討をすすめていきます。離職防止・定着については、介護職場のイメージを刷新する取り組みのほか、介護現場における文書負担軽減や手続の効率化による介護現場の業務負担軽減をすすめていきます。</p> <p>外国人研修生の受け入れについては、一部法人において既に実施されていることも承知しておりますが、一定程度の日本語を勉強して来日しても、語学、文化、高齢者の価値観、在留資格、国家試験に合格できない等の課題があり、市が全面的に実施する施策として掲げるには解決すべき課題が多いと考え、まずは、受け入れを実施する法人等への情報提供等による側面的支援をすることで、国、県の支援制度を十分に活用できるようにすることが先決であると考えています。</p> |
|-------------|--|--------------|---|